

(単元) 財務諸表の活用の基礎

(本時のねらい)

財務比率などの財務指標の意味と計算方法を習得させる。また、財務指標の具体的な例を用いて、同一企業における期間比較や同業他社比較を行わせることを通じて、収益性や安全性などの面から企業の実態を分析する方法を習得させる。

(ICT活用方法)

電子黒板で貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書の3つの財務諸表を映し出し、それぞれの財務諸表のつながりを明らかにすることで、財務比率の計算を的確におこなう力を身に付ける。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 同一企業において期間比較をする目的を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 財政状態および経営成績などの良否を調べて、その原因を明らかにすることが財務諸表分析の目的であることを伝える。 		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 当座資産、利益剰余金に属する勘定科目を確認する。 当座資産合計を求めるには、株主資本等変動計算の作成が必要であることを気付く。 利益剰余金の勘定科目を確認して、利益剰余金合計を求める。 流動比率、受取勘定回転率、売上高総利益率など、問題にある財務諸表比率を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 資産、負債、純資産の分類や損益項目の分類を明らかにさせる。 貸借対照表の純資産の部と株主資本等変動計算書がつながっていることに気付かせる。 比率の計算結果をもとに、収益性や安全性の面から企業の実態を把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較貸借対照表をPDF化して電子黒板に映し出し、資産・負債・純資産の分類をする。(①) 電子黒板で3つの財務諸表を映し出し、それぞれの財務諸表のつながりを明らかにする。(②) 	

まとめ 5分	・ 本時のまとめを聞く。	・ 財務諸表のつながりを考えながら財務比率を計算する方法を確認する。	
-----------	--------------	------------------------------------	--

(授業の様子)



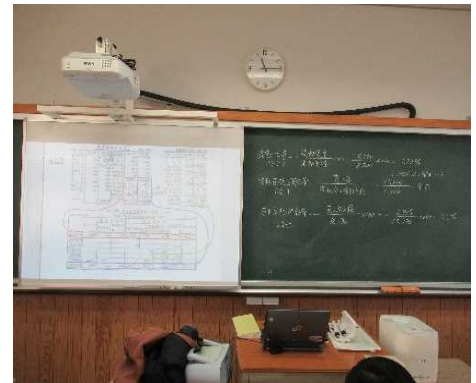
教材の投影

(指導案①：分類をする)

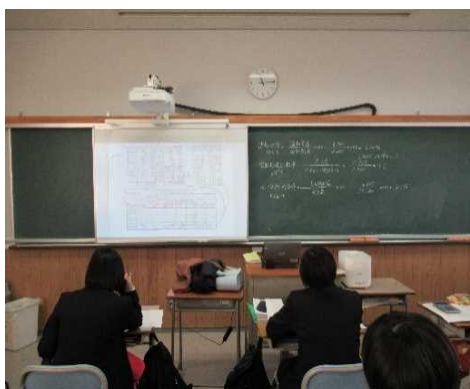


教材の投影

(指導案②：つながりを示す)



板書と ICT



授業風景

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

電子黒板を使用することで、それぞれの財務諸表の全体像がよくわかり、3つの財務諸表のつながりも説明しやすい。検定の模擬問題をPDF化するだけで教材を作成する手間もかからない。生徒の反応は良好である。電子黒板による効果的な指導により、生徒の学習意欲が高まり、検定取得を目標に前向きに取り組んでいる。課題は、電子黒板の操作である。電子ペンを使ってスムーズに説明できるように、繰り返し電子黒板を使用して問題を解くなど、操作に慣れていきたい。